

第2講

リーダーにはやっぱり人望が必要だよ
ーなぜ応仁・文明の乱は拡大していったのかー（2023年度第2問）

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

- (1) 1433年4月、安芸国の国人小早川家の家督をめぐり、持平・熙平兄弟が争った。兄弟の父則平は、当初持平を後継者に指名したが、死去の直前あらためて熙平を指名していた。將軍足利義教が有力守護に意見を問うたところ、まず一族・家臣の考えを尋ねるべしという回答が大勢を占めた。
- (2) 1433年11月、義教は、かつて管領を務めた斯波義淳の後継者として、その弟たちのなかで以前から有力な候補と目されていた持永をしりぞけ、その兄義郷を指名して斯波家の家督を継がせた。
- (3) 畠山家では、惣領持国と將軍義教との関係が良くなかったため、1441年、有力家臣たちが義教に願い出て、弟の持永を家督に擁立した。しかし同年、義教が嘉吉の変で討たれると、持国は軍勢を率いて持永を京都から追い落とし、家督に復帰した。
- (4) 斯波家では、義郷の跡を継いだ義健が幼少だったため、有力家臣甲斐常治が主導権を握った。義健が早世したあと一族の義敏が跡を継いだが、常治と義敏の父持胤が対立した結果、義敏は家臣たちの支持を失い、1459年、家督をしりぞいた。

設問

1467年に応仁・文明の乱が起きた。乱の発生と拡大には、この時期の武士の家における家督継承決定のあり方の変化がかかわっていたと考えられる。その変化と乱との関係について、5行（150字）以内で述べよ。

解いてみましょう (第2講) について

1 問われている (求められている) ことを確認する。

ア 応仁・文明の乱の時期の武士の家における (7) の (イ) の (ウ) について書く。

イ その (ウ) と応仁・文明の乱の (イ) との関係について書く。

ウ 5行 (150字) 以内で書く。

2 資料と教科書 (山川出版社『詳説日本史』) の内容とを照らし合わせる。
関係する教科書のページと内容は、

教科書の 134 ページの4行目～12行目及び脚注②、③



嘉吉の変後、将軍権力の弱体化にともなって有力守護家や将軍家にあいついで内紛がおこった。まず畠山・斯波の両管領家に家督争いがおこり、ついで将軍家でも8代将軍足利義政の弟義視と、子の足利義尚を推す義政の妻日野富子のあいだに家督争いがおこった②。そして当時、幕府の実権を握ろうとして争っていた細川勝元と山名持豊 (宗全) が、これらの家督争いに介入したために対立が激化し、1467 (応仁元) 年、ついに戦国時代の幕開けとなる応仁の乱が始まった。

守護大名はそれぞれ細川方 (東軍) と山名方 (西軍) の両軍③にわかれて戦い、主戦場となった京都市は戦火に焼かれて荒廃した。

② 単独相続が始まり、嫡子の立場が庶子に比べて絶対的優位となったため、その地位をめぐる争いが多くなった。とくにこの頃になると、大名などの家督決定が、父親の意志だけでなく、将軍や家臣の意向に大きく影響されるようになり、家督争いはますます複雑化した。

③ 1467 (応仁元) 年5月、東軍は将軍邸を占拠して、いったん義政・義尚・義視を手中にしたが、翌68 (応仁2) 年11月、義視が西軍に走り、東西二つの幕府が成立した。
(P. 134 L 4行目～12及び脚注)

3 与えられた資料をもとに作成した「東大チャート」を解く。

次のページに「東大チャート」があります。上記の空欄に当てはまる語句も記されています。

東大チャート 「なぜ応仁・文明の乱は拡大していったのか」(2023年度第2問)

()へは、ほぼ抜き出して入れる。)へは、考えて「決めぜりふ」を入れる。

(7) **家督継承決定** の (イ) **あり方** の (ウ) **変化** を書く。その (ウ) **変化** と応仁・文明の乱の (I) **発生と拡大** との関係を書く。

【教科書の記述】
 単独相続が始まり、嫡子の立場が庶子に比べて絶対的優位となったため、その地位をめぐる争いが多くなった。とくにこの頃になると、大名などの家督決定が、父親の意志だけでなく、将軍や家臣の意向に大きく影響されるようになり、家督争いはますます複雑化した。
 (P. 134 脚注②)

(1) 1433年4月、安芸国の国人小早川家の家督をめぐり、持平・熙平兄弟が争った。兄弟の父則平は、当初持平を後継者に指名したが、死去の直前あらためて熙平を指名していた。将軍足利義教が有力守護に意見を問うたところ、まず一族・家臣の考えを尋ねるべしという回答が大勢を占めた。

(4) 斯波家では、義郷の跡を継いだ義健が幼少だったため、有力家臣甲斐常治が主導権を握った。義健が早世したあと一族の義敏が跡を継いだ。常治と義敏の父持胤が対立した結果、義敏は家臣たちの支持を失い、1459年、家督をしりぞいた。

(2) 1433年11月、義教は、かつて管領を務めた斯波義淳の後継者として、その弟たちのなかで以前から有力な候補と目されていた持永をしりぞけ、その兄義郷を指名して斯波家の家督を継がせた。

【教科書の記述】
 嘉吉の変後、将軍権力の弱体化にともなって有力守護家や将軍家にあいっいで内紛がおこった。 (P. 134 L4～5)

(3) 畠山家では、惣領持国と将軍義教との関係が良くなかったため、1441年、有力家臣たちが義教に願い出て、弟の持永を家督に擁立した。しかし同年、義教が嘉吉の変で討たれると、持国は軍勢を率いて持永を京都から追い落とし、家督に復帰した。

【教科書の記述】
 そして当時、幕府の実権を握ろうとして争っていた細川勝元と山名持豊(宗全)が、これらの家督争いに介入したために対立が激化し、1467(応仁元)年、ついに戦国時代の幕開けとなる応仁の乱が始まった。 (P. 134 L8～10)

家督継承は ① だけでなく、
 ② や ③ ・ ④
 の ⑤ が ⑥ 。

⑦ 後、⑧ が
 ⑨ すると ⑩ に
 ⑪ 。

そして、家督継承を ⑫ で決定する動きが生じた。

これに当時、
 ⑬ いた

細川勝元と山名持豊が ⑭ したため
 ⑮ して乱が発生し、
 ⑯ するまでに拡大した。

(空欄③と④は順不同です)

【教科書の記述】
 1467(応仁元)年5月、東軍は将軍邸を占拠して、いったん義政・義尚・義視を手中にしたが、翌68(応仁2)年11月、義視が西軍に走り、東西二つの幕府が成立した。 (P. 134 脚注③)

抜き出したものをまとめる

家督継承は ① だけでなく、② や ③ ・ ④ の ⑤ が ⑥ 。 ⑦ 後、⑧ が ⑨ すると ⑩ に ⑪ 。そして、家督継承を ⑫ で決定する動きが生じた。これに当時、⑬ いた細川勝元と山名持豊が ⑭ したため ⑮ して乱が発生し、⑯ するまでに拡大した。



4 150字に要約する。

今回、問題を解くことで学んだこと